

鹿児島県大隅地域

□ 新たな木材需要に対応した効率的な木材生産・流通と一貫作業による再造林の推進

新たな木材需要に対する原木流通の効率化を目指す

大隅地域では、森林組合や素材生産業者をはじめ製材加工事業者、木材市場、苗木供給者など28者が参画し、森林施業の集約化や木材生産の低コスト化、木材の効率的・安定的な供給体制の構築、需要拡大に向けた普及促進、再造林の推進など、川上から川下までの総合的な取組を集中的に実施している。

□ 現状と課題

当地域は、充実した人工林資源を背景に大型製材工場の本格稼働、CLTや国産材2×4工法部材の生産、日本一を誇る志布志港からの木材輸出といった新たな需要が創出され、今後も木材需要が増加していくことが期待されている。こうした旺盛な木材需要に対応するため、木材生産の低コスト化や木材の効率的・安定的な供給体制の構築を図ることが課題となっている。



図1 大隅地域における新たな木材需要の創出

□ アプローチ

モデル事業の推進に当たっては、大隅流域森林・林業活性化センター内に「林業成長産業化推進部会」を新設し、5つの重点プロジェクトに取り組んでいる。そのうち原木流通の効率化については、当推進部会に「原木流通効率化推進PRJ部会」を設置し、大型製材工場への原木安定供給に向けた協定締結の協議を進めるとともに、木材流通において、地理的不利な条件下にある“なんぐう(南大隅)地域”における効率的な木材流通体制の整備に向けた協議を進めてきた。



写真1 林業成長産業化推進部会開催状況

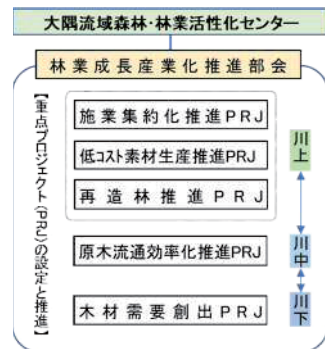


図2 本地域の推進体制

□ 取組の効果・成果

大型製材工場への原木安定供給に向けた取組については、大隅地域の4森林組合及び県森林組合連合会と大型製材工場との間で、供給量、価格、運用などについて協議を重ね、平成31年4月に原木安定供給取引協定を締結することができた。また、なんぐう地域において、令和元年6月に木材集荷の拠点となる中間土場を整備した(約0.8ha)。



写真2 大隅地域原木供給調印式(H31.4)



写真3 南大隅町に整備した中間土場

□ 成功要因

推進部会やプロジェクト会議等を定期的に開催し、取組内容の検討や進捗管理、情報の共有・提供などを行うことにより、参画者の合意形成や情報共有が図られ、関係者が一体となった取組を進めることができた(21回(H30年度))。

□ 他地域でも応用できる考え方

関係者間の情報共有や合意形成を図る上では、積極的な情報発信が必要である。最近では、誰でもfacebook等のSNSで手軽に情報発信できることから、当大隅地域の林業成長産業化の取り組みも鹿児島県大隅地域振興局の林務職員が中心となって情報発信に努めているところ。是非、御覧ください。

図3 大隅流域森林・林業活性化センターホームページ